

講座名（専門科目名）	治療情報学講座 病院薬剤学	教授 氏名	奥田 真弘
学生への指導方針	自由な発想を尊重し、基礎研究と臨床研究を組み合わせて展開できるように指導します		
学生に対する要望	薬物療法の個人差の要因を解明し、最適な薬物療法の実現に興味のある学生を求めます		
問合せ先	(Tel) 06-6879-6000 (Email) okudam@hosp.med.osaka-u.ac.jp	担当者	奥田 真弘
その他出願にあたっての注意事項等	特記事項なし		

（以下教室紹介）

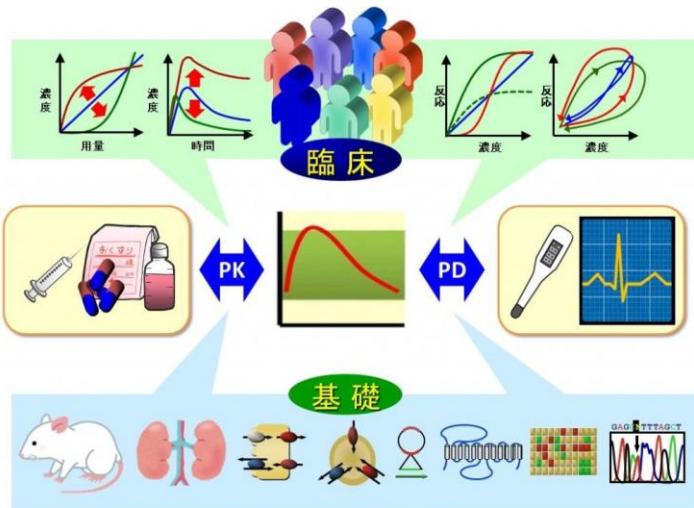
医薬品は、主に製薬企業が創製し、有効性や安全性に関するさまざまな試験結果をもとに薬事承認され使用されますが、心身に少なからず負担をかけることから個々の状態に応じて適切に使用する必要があります。投与量一つをとっても”One size fits all”というわけにはいかず、薬物の体内動態や投与後の反応を事前情報に基づいて予測したり、投与後にモニタリングすることで、薬物投与の適切性を評価したり、変更することが必須となります。しかしながら、薬事承認までに得られる情報は限定的であることから、市販後も医薬品適正使用に必要な情報を収集することはとても重要です。

当院の薬剤師はチーム医療の一員として、専門家の立場から日常的に医薬品適正使用に関与する中で、日々さまざまな問題に直面しています。日々直面するクリニカル・クエスチョンは、リサーチ・クエスチョンとして研究展開することで初めて、臨床データに基づいたエビデンス構築や、基礎研究に基づいて原理を明らかにすることが可能になります。

病院薬剤学分野の研究室は、大阪大学医学部附属病院薬剤部内にあり、医薬品の有効性・安全性確保と適正使用推進のため、薬物動態学、細胞生物学、疫学（症例対照・コホート）を基盤として、主に以下の臨床研究と基礎研究を目指しています。

薬学部出身者や薬剤師以外の方も広く受け入れています。
私たちと一緒に最先端の臨床薬学研究に取り組んでみませんか？

- 1) 薬物の体内動態制御因子並びに薬効・副作用バイオマーカーの検索とその有用性
- 2) 薬物の血中濃度モニタリングと投与設計
- 3) ゲノム情報に基づいた薬物療法個別化
- 4) 高品質な新規院内製剤の開発
- 5) 薬剤業務の質的・量的評価と医療における薬剤師の役割



臨床での不確実性や個人差を克服し、最適な薬物治療を追究